

## 令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立新宿小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・読み聞かせや関連する図書を置くことで、読書への関心が高まった。
- ・対話を多く取り入れることで、話すこと・聞くことの力が付いてきている。

#### (2) 課題

- ・言語についての知識・技能を確実に身に付けさせ、不十分な児童にはさらに丁寧な個別対応を行う。
- ・漢字を正しく読み、適切に使えるよう既習の漢字は普段から使うよう指導する。また、語彙が増えるよう、教室内の掲示を工夫する。
- ・自分の意見とその理由を明確にしなが文章を書くことを普段から多く取り入れる。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：▼</li> <li>・区平均との比較（達成率）：▼</li> </ul>	/	/
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：▼</li> <li>・区平均との比較（達成率）：▼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：△</li> <li>・区平均との比較（達成率）：△ (第4学年時)</li> </ul>	/
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：△</li> <li>・区平均との比較（達成率）：△</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：△</li> <li>・区平均との比較（達成率）：▼ (第5学年時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：▼</li> <li>・区平均との比較（達成率）：▼ (第4学年時)</li> </ul>

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を下回った。</li> <li>・言語の特徴、使い方に関する事項、書くことの項目が大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を上回った。</li> <li>・話すこと・聞くこと、読むことの項目が上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述の項目が、目標値を下回っている。</li> </ul>

##### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を上回った。</li> <li>・我が国の言語文化に関する事項、書くことの項目が5・6年共に上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5・6年を平均すると目標値を上回った。</li> <li>・5・6年で上回っている項目が大きく異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述の項目が5・6年共に目標値を上回っている。</li> </ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間や宿題などで、平仮名・カタカナ・漢字を定着させる。</li> <li>・タブレットでの復習を取り入れる。</li> <li>・あらゆる場面で語彙が増えるよう、言葉の意味や使い方を授業の中で確認したり掲示したりする。</li> <li>・文章を読んだり書いたりする際は助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を意識させ、正しく理解・活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語や、「いつ、誰と、どこで、どうした」等の基本的な文型をおさえる。</li> <li>・文を書くことへの抵抗感を減らすために短文を書く経験を重ねる。また書いたものを発表したり読み合ったりする機会を作る。</li> <li>・場に応じた声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話せるよう、また、大事なことを落とさずに聞けるよう、発表やスピーチの機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活において身近なものを教材に活かしたり、ICTを活用して教材を提示したりする。</li> <li>・関連する本を教室に置き、読んだり調べたりすることのできる環境を整える。</li> <li>・読書に親しむ時間を増やす。</li> <li>・言葉集めをして語彙を増やすようにする。</li> <li>・日常的に音読に取り組み、言語への関心を高める。</li> </ul>

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間を使って、読み方、書き順、熟語、短文作り等の学習を継続して行う。</li> <li>・タブレットでの復習を取り入れる。</li> <li>・書いた後に見直す習慣を付けさせる。</li> <li>・辞書を常に活用できる環境を整え基本的な辞書の使い方を身に付けさせ、毎単元繰り返し使用させる。</li> <li>・「書く、読む、話す、聞く」のあらゆる場面で主語と述語の関係や修飾と被修飾との関係などを授業の中で確認するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された長さで文章を書いたり、書く目的や意図を意識して、中心となる事柄をおさえさせて自分の感想や意見を文章に表したりする機会を増やす。また、読み合ったり、推敲し合ったりする場を設定する。</li> <li>・話し合いや発表の機会を増やすとともに、相手に伝える話し方ができるように、タブレットの録画機能を活用して自分の話し方を振り返ることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活において身近なものを教材に活かしたり、ICTを活用して教材を提示したりする。</li> <li>・関連する本を教室に置き、読んだり調べたりすることのできる環境を整える。また、本の紹介をし合うことで、読書の幅が広がるようにする。</li> <li>・教科書だけでなくICTや辞書も活用して言葉集めや分類を行うことで語彙を増やしていく。</li> <li>・日常的に音読に取り組み、言語への関心を高める。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・朝学習の時間を使って、読み方、書き順、熟語、短文作り等の学習を継続して行う。</li><li>・タブレットでの復習を取り入れる。</li><li>・書いた後に見直す習慣を付けさせる。</li><li>・基本的な辞書の使い方を定着させるとともに、常に使える環境を整える。</li><li>・読むことの学習において、指示語が示す内容を丁寧に確認し、正確に読む力を身に付けさせていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文章の中で用いられている言葉や表現について、意味や効果を、実感をもって理解できるようにする。また、発問を工夫するなどして場面の移り変わりや登場人物の心情変化との関係について児童が捉えられるようにする。</li><li>・目的や意図に応じた文章を書く機会を増やし、書こうとすることの意図が伝わるように、組み立てを工夫させる。また、友達同士で読み合ったり、推敲し合ったりする相互評価の機会を設定する。(ICTも活用する。)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・実生活において身近なものを教材に活かしたり、ICTを活用して教材を提示したりする。</li><li>・関連する資料や本を図書館から借りて教室に置き、並行して読ませる。また、本を紹介し合うことで、読む本の種類の幅を広げられるよう支援する。</li><li>・教科書だけでなくICTや辞書も活用して言葉集めや分類を行うことで語彙を増やしていく。</li><li>・日常的に音読に取り組み、言語への関心を高める。</li></ul>